

「医療の街」で異彩放つ専門クリニック

⑬⑨ 御茶ノ水呼吸ケアクリニック (東京都千代田区)



暖色系の色調で、開放感のあるエントランス。患者はリラックスして診療を待てる

東京・御茶ノ水は東京医科歯科大学や順天堂大学、日本大学などの付属病院が駅周辺に建つ「医療の街」。JR御茶ノ水駅前のオフィスビルに入る御茶ノ水呼吸ケアクリニックは、全国でも珍しい呼吸ケアの専門クリニックだ。特に睡眠時無呼吸症候群(SAS)の診療に力を入れている。

開業は2007年。「呼吸ケアでクリニックを経営するのは無謀といわれた」と村田朗理事長・院長は笑う。呼吸ケアでの開業のきっかけは、村田氏が医師になりたてのころにさかのぼる。当時、初めて読んだ海外の論文がSASに関するもので、寝て

いる間にさまざまな病態がつくられていることにショックを受け、睡眠呼吸障害を専門にすることにした。大学付属病院で長年診療してきたが、組織が大きい分、患者へのサービスや機動力に限界を感じたため、フットワークが軽く、しかも大学病院並みの最新高度医療を提供するクリニックを開院したのだった。

村田氏は「SASは放っておくと、高血圧、糖尿病、動脈硬化、心筋梗塞、脳梗塞などさまざまな疾患につながりかねない」と話す。同クリニックではCOPD(慢性閉塞性肺疾患)や慢性呼吸不全などに伴う



クリニックはJR御茶ノ水駅前のビルに入る。アクセスの良さが評判だ



患者の睡眠時の様子を診る検査室。ホテル並みの設備だ



患者の睡眠状態のデータ分析、保存をしている解析室



十分な広さを確保し、呼吸機能回復訓練を行うリハビリ室



「医療分野でホスピタリティーを追究したい」と話す村田理事長・院長



呼吸機能検査、心電図、超音波検査など大学病院並みの設備を備えた生理機能検査室

高血圧や糖尿病などの内科診療も行っている。現在、口コミやホームページ、マスコミで評判が広がり、東北地方など遠方からも患者が集まるようになった。月間の患者数は、この分野では日本トップクラスの診療実績という。

精密検査が必要な場合は、睡眠ポリグラフィ(PSG)を行い、脳波や呼吸の状態を観察する。患者はいびきをかくので、各室は防音措置を施し、体格などに合わせて固さの違うベッドを用意。PSGを含め、呼吸機能検査機器は大学病院並みの高精度なものを導入している。

最大の特徴は約50平方mのリハビリ室。専門の理学療法士の指導の下、歩行訓練や機器を使ったトレーニングを行う。COPDで普段は地元の医院にかかり、リハビリはここに通うという患者も珍しくないという。村田氏は「苦しいから動きたくなくなり、次第に運動能力が落ちて寝たきりになってしまう。呼吸リハビリは足腰を鍛えることが第一」とその意義を強調する。

村田氏は「今後はさらにスタッフ個々の技術の向上を図るとともに、ホテル並みのホスピタリティーを重視した患者対応を一層目指していく」と述べる。